

2015年度 第6回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録（確定稿）

- 開催日時：2016年3月8日（火）18時30分～20時30分
- 開催場所：田無総合福祉センター 第3会議室（4階）
- 出席委員：阿部恵子、五十嵐強、荘雄一朗、辻信明、野崎信行、
渡辺真也、渡辺裕一<以上7名、敬称略、五十音順>
- 出席職員：丸木福祉活動推進課長、中澤ボランティア・市民活動センター係主任、
嶋田主事、長山コーディネーター

【配布資料】

- 資料 1：西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告(2016年1～2月)
- 資料 2：コーディネート状況等月次報告(2016年1月～2月)
- 資料 3：ボランティアコーディネート実績(2016年1～2月)
- 資料 4：2016年度西東京ボランティア・市民活動センター予定表（3～4月）
- 資料 5：2016年度第5回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録
<未定稿>
- 資料 6：市区町村ボランティア・市民活動センターのめざすもの
- 資料 7：2016年度西東京ボランティア・市民活動センター主な事業別予算
- 資料 8：今後の取り組みについて
- 資料別冊：2015年度第4回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<確定稿>
- 配布資料：社会的包摂にむけた福祉教育

1. 報告事項

(1). 2015年度1月～2月西東京ボランティア・市民活動センター業務報告について

○事務局より資料1～4に基づき、2016年1月から2016年2月末までの業務について報告を行う。

○以下、質疑、協議が行われる。

委員長：ご意見、ご質問をお願いしたい。

委員長：ヴィーガーデン ザ・レジデンスでの事業説明について詳細を報告いただきたい。

事務局：ヴィーガーデン ザ・レジデンスは、向台町にある大規模マンションである。会費や募金のお願いをしてきた中で、住民に対する事業説明の依頼をいただき、法人運営係が窓口となり、社会福祉協議会の事業説明を行ったものである。

委員長：西東京市介護保険連絡会での事業説明について詳細を報告いただきたい。

事務局：西東京市介護保険連絡会は、西東京市が主催をしている介護支援専門員の集まりである。毎年研修会を行っており、今回は、社会福祉協議会の事業やサービスについて知りたいという依頼があり、説明を行ったものである。

委員長：西東京レスキューバードとの関係であるが、自主グループとしての活動として認識している。

資料の記載を見るとボラセンの事業のように見えるがどのように考えているのか。

事務局：次回より、外部会議として掲載する。

委員：ヴィーガーデン ザ・レジデンスでの事業説明は、次につながるものとして大切にしてほしい。今回は参加者が少なかったものの、今回の参加者が知人に声をかけることで、参加者が増えていくかもしれない。良い機会であったと思うので、仕掛けを考えてつながりを作っていただきたい。

委員：3月10日に予定している講座の申し込み状況はどうか。

事務局：現在、8名である。ボランティア活動を既に行っていて、興味関心の強い方がほとんどであり、これまで知らなかったことについて知るために気軽な感じで申し込んでいる人は少ない。

委員：その人の立場に立ち、活動をするということは大切なことであり、せっかくの機会なのでもったいないと思う。ぜひ多くの方に聞いていただきたいので、一人でも多くの方に聞いてもらえるよう、努力をしていただきたい。また、人づてで情報が伝わって行くことは有効であるので、大切にしてほしい。

2. 審議事項

(1). 2015年度第5回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録(未定稿)について

●2015年度第5回運営委員会の記録について確認を行う。確認終了したので確定稿にする。

(2). 平成28年度事業計画・予算(案)について

○事務局より資料6と7について説明を行う。

委員長：ご意見、ご質問をお願いしたい。

委員長：ボランティアのつどいは単独での開催はしないということで良いのか。

事務局：準備会を2回開催したが、出席団体が少なく結論に達していない。ただし、方向性としては、ゆめこらぼとの協働開催の予定である。ゆめこらぼの実行委員会が5月以降に開催されるので、その前に最後の準備会を開催して、結論を出したい。

委員：事業計画の書き方を見ると、ゆめこらぼ主催のNPO市民フェスティバルにボランティアのつどいの実行委員会がブースを出すように感じるがどうなのか。

事務局：それもひとつの形ではあると思うが、ゆめこらぼの実行委員会が動き始めた段階で、協議により決めていきたい。ボランティアのつどいの実行委員会がボランティア活動に特化した取り組みを企画し実施できるようであれば、そこを担うということも考えているが、参加団体が少なければ、ブースを出すだけにとどまってしまうかもしれない。本来であれば準備会において、議論をしたいところであるが、出席団体が少なく協議することができていない。

委員長：ゆめこらぼの実行委員会にボランティアの集いの実行委員会のメンバーを入れてもらえるかという点がポイントになるのではないか。

事務局：今の段階では、共同開催のスタンスである。ボランティアのつどいの準備会がそのまま実行委員会になり、ゆめこらぼの実行委員会と合同会議を開いて議論をしていくことになる。議論の中で、先に説明した方法が出てくるのではないかと思う。協力関係を結びながら実施していくことだと認識している。

委員：ボランティア出前講座について、出向いていくということの意味を確認したい。いかにして営業していくかということが、出前という言葉の意味であると思う。相手が出前をお願いし

たいと思うように、多くの相手との接点を持ち、積極的な働きかけを行っていくように変えたということを認識し、こちらから積極的にアプローチをして取り組んでいただきたい。

委員長：出前講座ではなく、出張講座に変えてはどうか。

事務局：そのように変更する。

委員長：予算付けはしていないのか。

事務局：これまでにやってきたことを出向いて実施するイメージであるため、予算付けはしていない。

委員：積極的にこちらからお願いして開催させてもらうものであれば、予算付けはしておいた方がよい。評価をする際には、開催回数がポイントになると思うので、お金がなく開催することができなかったということがないようにしておく必要がある。

事務局：次年度の予算に反映できるようにする。

委員：傾聴関連の講座は開催しないのか。

事務局：来年度については予算化していない。

委員：傾聴のニーズがあり、グループも活発に活動をしているが、ニーズに応えきれていない。今後も高齢者の増加や災害時の対応等でニーズの増加が見込まれるので養成していただきたい。

事務局：費用、内容ともに、ボリュームのある事業であるため、来年度に向けての検討課題とさせていただきます。

委員：基本の部分だけやってもらえれば、既存のグループで受け入れることはできる。継続活動であるため、担い手が不足する。

事務局：傾聴講座ではないが、お話し相手をテーマとして、ボランティアを増やすことを目的とする講座の開催は考えている。

委員：検討していただきたい。

委員：他の事業との連携や共同開催、また近隣の社協で開催される講座に西東京市民が参加できるように調整することはできないか。

委員：近隣市での開催情報を広報していただきたい。

事務局：そのような情報があれば広報する。

委員：講座の企画については、施設、団体の要望を聞き行うのか、それともボラセンが考えているのか。

事務局：今までは、ボラセンの職員が考えていたが、今後は地域に出向くことで地域の声を基にした講座づくりを行っていきたいと思っている。

委員：施設、団体から講座の開催についての相談はないのか。

事務局：今は、ほとんどなくなってしまったが、今後は力を入れていきたいと思っている。多様なコーディネートに含まれる部分でもある。ボラセンが本来持っていた機能を取り戻したいと思っているので、多様なコーディネートの部分については、今後ご意見をいただきたい。

委員：必要であれば費用負担などを行い、近隣の社協で開催される講座に西東京市民が参加できるように交渉することもコーディネートの一つであると思う。

委員長：ミニ講座がなくなっているがなぜか。

事務局：似ている内容のものであるため、ミニ講座の趣旨を取り入れて、はじめて講座に統合した。

●平成 28 年度事業計画・予算（案）について確認を行った。

3. 協 議 事 項

(1). ゆめこらぼ運営委員会との相互傍聴について

○事務局より説明を行う。

事務局：社協内部の連携が課題となっており、特にゆめこらぼとの連携が大切である。このことはアクションプランにも示されている。また社会福祉協議会の担当理事がボラセンとゆめこらぼの両方を統括することになっており、担当理事から提案があったものである。運営委員会同士の交流というところも含めて、その前段としてお互いに傍聴をするところから始めてはどうか。やるかやらないかはそれぞれの運営委員会において議論していただいて、双方がやるということになれば、詳細を運営委員長同士で話し合っただけで決める。もしくは、事務局に一任するなどの方法が考えられる。

委員長：ご意見、ご質問をお願いしたい。

委 員：自分の団体では、既に両方と連携しているがもっと連携をした方がよいと思う。

委員長：情報交換ができる場という感じで捉えてよいか。

事務局：最初から情報交換ができるかはわからないが、何回かやるうちに運営委員会同士が協議できるような場面が持てればよい。また、連携を深めることで、相互に互いの講座を活用できたり、運営委員の意見も取り入れて、講座を作ることができるようになる。

委 員：現場レベルでの打ち合わせは先行して行っているのか。

事務局：具体的にはまだできていない。

事務局：5月から相互傍聴をやるのであれば、正副委員長に事前に情報提供をして打ち合わせをしたうえで行いたい。

委員長：事務局と打ち合わせをしながら、進めていくこととする。

(2). 今後の事業の方向性について

○事務局より資料8と9について説明を行う。

事務局：今回提出した資料をベースにさせていただき、今後ボラセンがめざすところ（役割・位置づけなど）を明確にしていく中で、資料中に挙がっているような課題を解決していけるような道筋（5年間の中期計画）を作っていきたい。

委 員：おとなも含めた社会教育の部分について、育成会に説明しに行ってはどうか。

委 員：オリンピック、パラリンピックについて、東京オリンピックへの関わり（ボランティア活動）を作ることが、学校に課せられた課題になっている。ボラセンからつながりが持てると良いし、ボラセンが提供できるメニューを校長会に提案することで動きが出るかもしれない。

委 員：保育ボランティアの活動が掲載されているが、ボラセンがこのようなコーディネートを行っているということを知らせて行ってはどうか。小学校低学年の保護者などからのニーズはあると思う。

委 員：アダプテッドスポーツ（ブラインドサッカー、車いすバスケットなど誰もが楽しめるスポーツ）があり、武蔵野大学でも新入生を対象として4月9日に実施する。どのようなワークショップを行うのかなど、情報提供が可能だと思う。

委 員：東京マラソンの伴走者を小学生が体験できるとよいと思っている。

委員：いろいろな仕掛けができそうである。

委員：出張講座のことであるが、いま必要性を感じていない相手に対しては、先方の求めている価値を探る（聞いていく）ところから始める必要がある。価値観の一致を伝えながら、提供していくことが大切である。

委員：コミットメント（参加）してもらおうための取り組みを聞くことができた。相手の価値に合わないことをやっても、ノーといわれるだけである。

委員長：今、ボラセンは貴重な取り組みを行っていると思うが、行っている職員もなかなか認知しておらず、そのためアピールする方法が浮かばないのかもしれない。すごいことをやっていると思ってくれる人がいるのだから、校長会で何をすべきなのかなど、具体的な提案を行っていくことが大切である。

事務局：年度初めに、校長会宛に総合学習についての文書を送付するための検討を行っている。学校にプログラムを提供するだけではなく、一緒に考えていくことが大切な部分であると思っている。すぐにできるものばかりではないが、学校のニーズを聞きながら、既存のものを含め、具体的な取り組みを行っていきたいと思っている。

委員：出張講座を通して、チャンスを得ることができ、ニーズに対応していこうとすることで、コーディネート機能の強化も図れる。

委員長：時間になってしまった。議論半ばではあるが、一つの方向性は出たと思う。

4. そ の 他

(1). 次回運営委員会開催日程について

- 以下の内容を確認した。
 - 開催日時：平成28年5月10日（火）18時30分より20時30分まで
 - 開催場所：田無総合福祉センター第3会議室（4階）
- 以上をもって、2015年度第6回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会の審議、協議を終了し、閉会した。